

平成24年度共同研究の概要（成果報告書抜粋）

研究種目： 一般研究

研究代表者： 縄田 浩志（総合地球環境学研究所研究部・准教授）

研究分担者： 佐藤廉也（九州大学比較社会文化研究科・准教授）、村松弘一（学習院大学東洋文化研究所・准教授）、松永光平（総合地球環境学研究所中国環境問題研究拠点・研究員）

研究題目（和文）：

黄土高原の農村レベルにおける開発効果検証方法の研究

研究概要（和文）：

本研究の目的は、黄土高原の農村レベルにおける開発効果検証方法について、主に地理学、人類学、歴史学の視点から研究することにある。さらに同検証方法の研究を軸にして、鳥取大学乾燥地研究センターと総合地球環境学研究所（人間文化研究機構地域研究推進事業「現代中国地域研究」中国環境問題研究拠点）、学習院大学東洋文化研究所、九州大学東アジア環境研究機構との共同研究参加者間に黄土高原を中心とした共同研究ネットワークをさらに強固なものとして発展させること、である。

本研究の成果として、本年度は、著書（分担執筆）3本、口頭発表1本を行った。昨年度・本年度を合わせれば、学術論文（査読付き）3本（日本語・英語）、著書（分担執筆）6本（日本語・英語・中国語）、口頭発表6本である。また、科研費基盤（B）や総合地球環境学研究所予備研究を通じて、現地調査研究とネットワーク形成の双方が有機的に大きく進展した。

特筆すべきは、本研究の成果を、北京大学・総合地球環境学研究所共催「地球環境学講座」（2013年3月14日、北京大学）において、「中国・黄土高原の暮らしから考える砂漠化対処」と題して、北京大学の学生らに口頭発表することが出来たことである。これからの中国を背負って諸分野で活躍していくであろう学生らに直に本研究成果を伝えられたことは、長い目で見て社会への大きな波及効果となっていくのではないかと、期待している。